

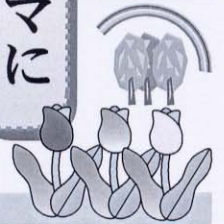
まちの出来事

ガーデニングなどテーマに

第3回花露路市、市民手作りで

4丁目平和通り一帯を歩行者天国にする園芸市「第3回花露路市」が、5月26日と27日の両日、同通りで開かれました。あいにくの雨にもかかわらず多くの市民が訪れ、花の苗などを品定めしたり、縁日を楽しむなど、思い思いの時間をすごしました。

花露路市は、中心市街地に活気を取り戻そうと、昭和街振興組合と4丁目昭和街町内会が企画した、手作りの新しいイベントです。



人気の高いガーデニングをテーマにしたことで、過去2回の開催時は多くの人でにぎわいました。

今年は、悪天候にたたられましたが、チビッコ紅白玉入れやスリッパターツなど、子ども向けのイベントではお母さんたちも童心にかえたように歓声を上げていました。

来年は、晴れやかな五月晴れのもと、盛況となることが期待されます。



どろんこになっても「楽しい」

渚滑小5年生が田植え体験



紋別地方でも行われていた稲作を子どもたちも知ってもらおうと、北海道網走支庁西部耕地出張所は、敷地内

期待に胸を膨らませています。

このミニ水田は、同出張所職員が毎月積み立ててきた親

にミニ水田を陸会費などをあてて整備し、渚滑小学校（置田光雄校長）の5年生14人に田植え体験の機会を提供しました。子どもたちは、足や手を泥だらけにしながらかも「お米が採れるのが楽しいのだなあ」と

初めての田植え作業は、子どもたちに新鮮な体験になった様子。男児の1人は「楽しくて、よい勉強になりました」と笑顔を見せていました。

稲の品種は「きらら397」の後継とされる「ななつぼし」で、北海道の涼しい気候でも育ち、食味が良いのが特徴。子どもたちは秋の収穫と試食を心待ちにしています。

雨にも負けず大歓声

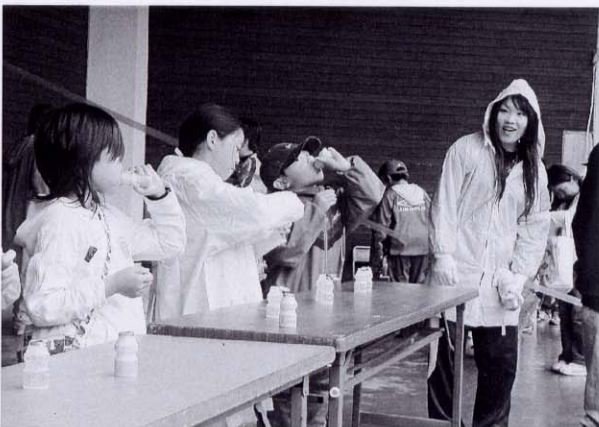
第13回こどもまつり

子どもたちに屋外で思いっきり遊んでもらおうとする「もんべつこどもまつり」が6月16日、森林公園で開催されました。

紋別市青少年健全育成推進委員協議会（今正一会長）が主催し、企画・進行係は紋別市ジュニア・シニアリーダークラブ（松倉知世会長）紋別高校3年）が務め

る毎年恒例の行事。13回目にして初めて雨に見舞われましたが、500〜600人の子どもたちが集まり元気な歓声を響かせました。

ステージでは、ヤクルト早飲み大会や〇×クイズ、長靴飛ばしなどのゲームが行われ、子どもたち



は結果に一喜一憂。恒例のポニー馬車も長蛇の列がで
きる人気ぶりでした。同協

議会の父母らも昼食にふるまうジンギスカンや豚汁の料理に活躍しました。

YOSAKOIに2チーム出場

紋別流氷童夢と紋別高等養護学校



北海道の夏を彩る祭りに成長した第16回YOSAKOIソラン祭りに、今年も紋別の2チームが
出場し、札幌で熱演すると共に紋別をアピールしました。
出場したのは、紋別流氷童夢(りゅうひょうどうむ)と紋別高等養護学校の2チームで、ともに10回目の出場となりました。

流氷童夢は、網走管内のYOSAKOIの草分け的存在ですが、道都大学紋別キャンパスの撤退などによりメンバー不足が悩みの種。04年と05年は規定の人数に達せず出場を断念。同祭りを主催する実行委員会の再生プロジェクトにより06年に復活を果たした経緯があります。今年も審査対象の40人に、届かない25人での参加でしたが、「化け」をテーマに人間の表と裏を表現する演舞で、手稲明日風会場では会場賞を受賞しました。

紋別高等養護学校は、開校翌年の98年から連続参加。初回からの伝統の曲と踊りで、テーマの「完全燃焼」にふさわしい踊りを札幌の観客に届けました。

高校・大学生 らに指導

113人に最高の技を伝授 全日本男子ハンド合宿



パスの回し方、攻撃の組み立て方などを指導しました。3つのボールをお手玉のように操りながらパスしあうことで、ボールの軌道を瞬時に見極める練習など、ユニークな方法も披露され、参加者からは真剣な表情で取り組

んでいました。
練習後は、参加高校・大学の各チームのなかに全日本の選手も混じった交流戦が行われました。全日本選手らが一緒に動きながら、攻撃のフォーメーションを指示。参加者からは「さすがに動きのレベルが違う。いい経験になります」と、感嘆する声が聞かれました。

北京オリンピックへの出場を目指している、全日本男子ハンドボールチームの強化合宿が、6月13日から20日まで紋別市で行われ、イビツア・リマニツチ監督とコーチ、選手ら総勢23人を中心に連日、トレーニングに励みました。

17日には地元紋別をはじめ、北見、札幌、釧路などの高校生、大学生113人を対象にした講習会も開催されました。ポジション別にグループをつくり、全日本チームが

